

議 長	局 長	主幹・係長	係

粕屋町議会 視察研修報告書

下記（別紙）のとおり、視察研修に参加しましたので、その内容について報告いたします。

粕屋町議会議長 末 若 憲 治 様

令和 8 年 2 月 10 日

粕屋町議会
議会広報常任委員会
川崎 尚子

報告事項

委員会名	議会広報常任委員会
日 時	2月6日（金）13:30～15:30
視 察 先	福岡県添田町議会（議会広報常任委員会）
研修目的 （テーマ）	①添田町議会の広報体制や「議会だより」編集の工夫を学ぶこと ②目的①から、粕屋町の広報誌作成に生かせるポイントを見つけること
現状と課題	①粕屋町の現状と課題 粕屋町でも広報委員会を中心に「議会だより」を作成しているものの、担当者の経験や改選時の入れ替わりによって、紙面の雰囲気や構成に差が生じています。また、広報に関わる議員が基本的には委員会メンバーに限られているため、議会全体で広報の重要性を共有する機会が多いとは言えません。 ②課題の背景 ある程度のページ構成、配置は決まっているものの、紙面の統一感を保つための基準やマニュアルが十分に整っていないこともあり、住民の方にとって「読みやすい」「親しみやすい」紙面づくりのノウハウが蓄積しにくい状況だと考えられます。

<p>概 要</p>	<p>①研修内容の要点 添田町議会では、任期4年のうち2年ごとに広報委員を交代し、全議員が必ず広報誌づくりに関わる仕組みが整っていました。この体制により、議員全員が自然と広報の視点を身につけ、発信力や表現力が高まっているとのことでした。 また、広報誌づくりの「議会広報紙作成マニュアル」を完備しており、レイアウト案やラフ案、写真の配置、文章のまとめ方などが丁寧に整理されていました。編集に関わる委員は全員、そのマニュアルを参照しながら原稿を作成されるとのことでした。担当者が変わっても紙面の統一感が保たれる理由がよく分かりました。</p> <p>②粕屋町に参考になる点 ・全議員が広報に関わること、意識することの重要性 ・マニュアル整備による作業の標準化 ・予備知識のない町民目線に立ち、文字数を極力抑え、中学生にも伝わる分かりやすい表現を意識するなど、読み手の視点を大切にする姿勢 これらは粕屋町でも取り入れられると感じました。</p>
<p>質 疑 応 答</p>	<p>①広聴活動はどのように行っているか → 添田町では、年に一度開催の住民と議会のカタリ場～未来会議～を始め、イベントなどで住民と直接話す機会を大切にしていこうという方向性で動いています。粕屋町の議会モニター制度など他市町村の動きを参考にしていきたいとのことでした。</p> <p>②各議員から提出の一般質問原稿の訂正はあるのか。原稿作成は議員本人が作成しているのか。 → 原稿は議員本人が作成し、訂正が少ないとのことでした。議会内での原稿作成のルール、意思統一がしっかりしていることで、個々議員の意識、編集レベルが高まり、編集効率化につながっているのだと感じました。</p> <p>③ラフ案やレイアウトは誰が考えているのか。 → 広報委員会全体で話し合いながら作成しており、マニュアルに沿って作業することで紙面の統一感を保っているとの説明でした。</p>
<p>所 感</p>	<p>①学んだこと・町への活用（修正） 添田町議会広報委員会は、紙面づくりに対する考え方がしっかり共有されており、「議員全員の広報誌に対する意思統一」がとても印象的でした。また、2年交代制で全議員が広報に関わること、議会全体の発信力が自然と高まっている点は大きな学びでした。 （強く感じたこと） ・委員だけでなく、委員でない議員も発信力や表現力を高めることが、議会広報力のさらなる底上げにつながる。添田町のような意思統一の仕組みは、粕屋町においても、4年任期の中で広報の重要性を全議員に伝え、巻き込んでいくうえで参考になる。</p>

②（今後の方向性）

・ 一般質問、他、広報紙原稿作成のルールを明確にし、各議員に共有することにより、更なる編集作業効率化をはかりたいと考えます。全員が広報誌編集、広聴活動に関わる体制の仕組みを模索していきたいです。

- ・ 広報紙作成の土台となるマニュアル整備
- ・ 住民目線の紙面づくり研修
- ・ 議会全体で広報を支える体制づくり

これらを少しずつ進めることで、粕屋町の「議会だより」がもっと親しみやすく、町民にとって身近な存在になるよう取り組んでいきたいと思えます。